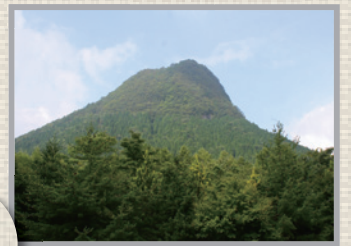


いたばし小P連

親子で交通ルールを守ろう！



烏帽子岳（上）
榛名湖畔にて（左）

いたばし小P
瓦版



平成24年度 板橋区立小学校PTA連合会 榛名宿泊研修

平成24年9月8日（土）～9日（日）
榛名林間学園（群馬県榛名湖町）

板橋区小P連では今回で2回目となる宿泊研修を行いました。板橋区内の区立小学校の児童が実際に宿泊する施設へ板橋区教育委員会、校長会、PTA連合会OB会、そして各単位PTA会長が宿泊体験をするものです。

目的は『参加者の研修と移動教室への理解と体験』『参加者の親睦を深め、横のつながりをより強いものとする』です。

ただ、宴会をするためだけに行くんじゃないの？と思われがちですが、そんなのんびりしたものではなく、なかなかのハードスケジュールでした。9時に板橋区役所を出発し、途中お昼休憩をはさみ、子どもたちと同じハイキングコースを歩きました。

その後林間学校へ到着。まずは管理人さんの案内で学園内の施設を確認して回りました。こちらの気候は東京の残暑とは程遠く、この時期でも、夜の最低気温は10℃くらいまで冷え込むそうです・・・。

ひと息ついたのもつかの間、午後2時から3時間の研修スタートです。研修会で教育委員会の矢部指導室長をはじめ小池庶務課長、中島生涯学習課長から板橋の教育に対する考えや仕組みを学びました。第2部では上田さんによる話し方講座も会長として大変勉強になりました。研修会の途中から大雨になってしまい、レクリエーションで予定していたキャンプファイヤーが中止となってしまいました。（2年連続での雨・・・）残念ですが山の天気は変わりやすいので仕方ないですね。

そのあとは皆でお風呂に入り、夕食を食べ、児童と同じように施設内で過ごしました。大人たちの議論は深夜まで続き、さらなるコミュニケーションを図れたと思います。

教育委員会、校長会、OB会、会長会と、立場は異なりますが板橋の子どもたちを支える大人たちが集まり、じっくりと腰を据えて議論できる場合は、宿泊研修ならではのと思いました。

今後も、より素晴らしい宿泊研修となるようにしていきたいと思いました。



榛名富士



設備の整った体育館



ハイキングコース入り口にて



バランスのとれた夕食

芳賀 日陽くん

高島第六小学校・6年生 ①サッカー ②東京都トレセン選出、2012ナショナルトレセンU-12関東選出 ※トレセン…日本のサッカーのユース育成の中心的役割を果たし、将来の日本代表選手を育成している。③兄の影響で3歳から毎日2、3時間④日本代表になってワールドカップで優勝する⑤体育 ⑥こだわりはドリブル 自分の学校自慢 芝生の校庭



尾野 透雅くん

紅梅小学校・6年生 ①太極拳 ②全日本武術太極拳選手権大会長拳A第3位、同大会 対練第3位、JOCジュニアオリンピック初級長拳第4位、同初級棍術第4位 ③2歳、週に5回、日曜日は日本連盟の強化練習 ④世界一の長拳（カンフー）選手になりたい ⑤昼休みと給食



新保 美蘭さん

金沢小学校・5年生 ①水泳 ②JOCジュニアオリンピック夏季大会 200M個人メドレー 第6位 2012年4月 関東大会 200M個人メドレー 優勝③4歳から、週に6回・1回2～3時間程度 ④オリンピックでメダルを獲ること ⑤好きな給食はキムチチャーハン



佐藤 涼香さん

新河岸小学校・6年生 ①体操 ②全日本ジュニア選手権大会 女子Bクラス種目別 段違い平行棒準優勝 ③6歳から、週6回・1回4、5時間 ④全国大会で1位になりたい ⑤体育 ⑥あこがれの選手は田中理恵選手です。得意技は車輪です



項目の説明

- 名前・学校名・学年
- ①得意なこと・種目
- ②最近の主な成績
- ③はじめた年齢と練習量等
- ④将来の夢
- ⑤学校で好きなこと
- ⑥その他

いたばしスーパーキッズ

高松 将吾くん

中根橋小学校・3年生①作文・読書 ②第44回 手紙・作文コンクール はがき作文部門 文部科学大臣賞 ③おじいちゃん達に書いた葉書を見たお母さんが、「上手に書いているからコンクールに出してみたら？」と言ったから。常に読書をして毎日日記をつけている ④人を助けるような仕事をしたい ⑤好きな教科は総合や社会。調べることが楽しいから



福元 結衣子さん

緑小学校・4年生 ①空手 ②東京都小学生空手道選手権大会4年女子組手の部優勝、同4年女子形の部準優勝、全日本少年少女空手道選手権大会4年女子組手の部第3位 ③5歳から、週に6回・1回2～3時間 ④高校生の山田先輩のようにになりたい ⑤体育（特に跳び箱）



大音 凜太くん

上板橋小学校・6年生 ①サーフィン ②日本サーフィン連盟東京支部大会 キッズクラス優勝、同連盟全日本選手権大会同クラス第8位、全日本ジュニアマスターズ選手権大会 キッズクラス第5位 ③7歳から、土日祝日に1回8時間 ④プロサーファー ⑤体育



大音 怜士くん

上板橋小学校・2年生 ①サーフィン ②湘南グロメツカップ プッシュクラス優勝、千倉海岸DAKINIカップ プッシュクラス準優勝 ③6歳から、土日祝日に1回2時間くらい ④プロサーファー ⑤体育



坂本区長に聞きました



坂本区長、後藤小P連会長、高田中根橋小会長（上）

坂本区長と後藤小P連会長（左）

インタビュー終了後、坂本区長と広報委員会メンバー（下）

インタビュー 後藤小P連会長 高田中根橋小会長

後藤・高田：今日はよろしくお願ひいたします。
坂本区長：どうぞ、よろしくお願ひいたします。

■しっかりした生活習慣を身につける

高田：さて、区長自身のお子様の教育でどこに気をつけて教育をされましたか？
区長：上の子どもが高校生の時までサラリーマンでしたので、週末の休みの時は、なるべく一緒に食事をするようにしました。その中で子どもが小さい時から食事の準備をさせました。お箸やお皿やお茶碗を出したり、お茶を入れたり、食後は食器の後片付けをしたりと自分のことは自分でやるようにさせました。私は今でもやっています。（笑）教育と生活習慣は繋がっていますし、学校と家庭生活も繋がっていて、セットになっています。親は生活の中で子どもにひとつ、ひとつ教えて、それをやらせて、しっかりした生活習慣を身につけさせることが大事だと思います。

■心に火をつける環境づくり

後藤：今後の学校のあり方や環境づくりについて、どのように思われますか？
区長：子どもに期待することのひとつは子ども自身が自分の可能性を追求することです。先生が子どもの可能性や関心のあるこ

とに、何かひとつ火をつけてあげる。それがスポーツでも文化活動でも学業でも何でも良いと思います。そこで、早々に結果を求めるのではなく、様々な経験をさせた上で、ひとつのことにじっくりと時間をかけて子どもの可能性や質を高めていくこと。また、その実現には地域の特性を活かして、地域に根差した学校づくりが大事だと思います。子どもたちの気持ちをひとつ、ひとつ拾い上げて、気持ちを高めていくことが大切であり、先生には情熱を持って努力して頂きたいです。良い先生がいれば、当然に良い児童が生まれます、そのような環境づくりをしていきたいです。そして先生と学校をいかにして地域が応援して、教育委員会が応援をしていくのかを考えていきたいです。

■人づくり

後藤：先生の中でも個人差、個性があると思いますが、どのように思いますか？
区長：先生方も人生経験の中で成長して教師としての人格を作っていきます。若い先生は経験はないが情熱があるでしょう。ベテランの先生には経験による知恵があります。それぞれ個人差や個性があります。その中でひとつの標準をつくるのではなく、さまざまな違いというものを、いかに組み合わせるかが求められます。大変に難しいこ

とですがバランスをとることが求められます。学校及び先生方には教師業として学校を支える人づくりを、また保護者の方々には親業として地域から学校を支える人づくりをそれぞれ担って頂きたいです。

■少しづつの成功体験

高田：子どもの個性も多様化してきていますが、どのように思われますか？
区長：善悪については何が善いことで、何が悪いことかをはっきりと伝えることが大事です。善いことをした時は、ほめてあげる。そうすれば子どもは喜びます。常にそのように接していき、少しづつの成功の体験をさせていくと、それが新しい目標や大きな目標につながっていくと思います。そのような環境をつくるのが大事だと思います。

■謙虚な姿勢

高田：先生と子どもとの信頼関係をつくるのが大切ですね。



いきいき子ども！あたたか家族！はつらつ先生“板橋”

区長：若い先生は経験が少なくても、一人の完成した教師として見られます。教員免許を取ったことは出発点で、これから経験を積んで成長していく中で、先生も謙虚に、常に問題意識と向上心を持ちつづけて頂きたいです。これはベテランの先生にも言えることで、全員が同じ意識を持つことが大事です。

■教育支援センター

後藤：教育支援センターについて、どのようなものにされたいですか？
区長：個々の先生が持っている貴重な経験や知識や情報を皆が共有できるように、先生方の情報交換や人と人との交流が図れる場所づくりをしたいです。また幅広く情報を収集して教育現場に必要な情報を発信、提供していきたいです。保護者の方にとっては学校では対応ができない相談などの窓口もつくりたいとも思います。いづれにしても前例にとらわれずに、その時々で柔軟に対応ができるものにしたいですね。

■変化に気づく場づくり・環境づくり

後藤：いじめの問題についてどのように思われますか？
区長：いじめのない社会をつくる為には、社会が変わっていかなければならないと思います。大人が子どもに向き合い、子どもの気持ちや心にどまて対峙できるかが、大

事だと思います。家庭や学校が常に子どもとの会話やコミュニケーションを大切にしてい、習慣的に変化に気づくという場づくり、環境づくりが必要です。また大人が子どもにルールや真心、思いやりについて教えて、地域社会全体が子どものことを見守る必要があると思います。いじめが表面化して解決するのではなく、いじめを起こさない取り組みが必要だと思います。その為にも学校と地域との連携を大切に、地域の方々のご協力を頂くと共に、学校支援地域本部を活用してやっていきたいと思

■小・中学校の連携

後藤：異学年の交流について、どのように思われますか？
区長：小学生と中学生の交流の場を増やしていきたいです。ボーイスカウトでいうと、その活動の中で、小学生と中学生が交流します。小学生は中学生がやっていることを見て、すごいなぁと思い、尊敬し、憧れます。身近に目標とする先輩がいると、自分も将来あのようになりたいと思い、目標に向かって頑張れます。また教える側の中学生は、教える為の準備や努力をすることで、自覚が成長します。このように交流することは、お互いに良い刺激になると思

の交流を増やしたいですね。

■子どもたちに宿泊体験を！

高田：寺子屋や土曜授業では普通の授業ではできないことをやったりしていますが、たくましい人間づくりなどの体験学習などをやるのはいかがですか？
区長：私の知人のカナダの方は、ボランティアでサマーキャンプを企画して、子どもたちに1～2週間の宿泊体験をさせます。自分の衣服・生活道具が入った荷物を背負って山道を歩き、ナイフを使ったり、料理を作ったり、友人と寝食を共にします。自分が生活する為のことは全て自分でやります。自然の中での体験では、今の社会の豊かさや便利さがいかに他に依存しているものか、また生きることの原点を確認することができます。大変に貴重な体験であり、これからの人生に必要な経験だと思います。是非、子どもたちに宿泊体験をさせてあげてください。

後藤・高田：本日はお忙しい中ありがとうございました。
区長：こちらこそありがとうございました。これからの小P連の活動に大いに期待しています。

いたばしスーパーキッズ

板橋区立小学校に通う一芸に秀でたスーパーキッズをご紹介します。

村山 喜一くん



板橋第四小学校・3年生 ①トライアスロン、デュアスロン（ラン・バイク・ラン）、ロードバイク ②第12回日本デュアスロン選手権 小学3年生第1位（平成23年度板橋区国民文化優秀賞受賞）③もともと走るのが得意で両親がホームページ等を見て5歳からマウンテンバイクを始めた。練習は毎日。④自転車競技の選手 ⑤好きな給食はカレーライス

村山 奈菜さん



板橋第四小学校・1年生 ①トライアスロン、デュアスロン、ロードバイク ②2012オールキッズトライアスロン大会 小学1年生女子第1位 ③お兄ちゃんがやっているのをみて3歳からはじめる。バイクの練習を自宅屋内のローラー台にて30分ほど行う。④陸上競技の選手 ⑤国語が好き

項目の説明

- 名前・学校名・学年
- ①得意なこと・種目
- ②最近の主な成績
- ③はじめた年齢と練習量等
- ④将来の夢
- ⑤学校で好きなこと
- ⑥その他